

# 全小社研

・発行所  
 ・全国小学校社会科研究協議会  
 ・東京都新宿区四谷2-6  
 ・発行人 石井 正 広 幸  
 ・編集人 西 谷 秀

## 社会・地理歴史・公民WGにおける検討事項・論点

文部科学省初等中等教育局教育課程課 教科調査官  
 国立教育政策研究所教育課程研究センター 教育課程調査官

小 倉 勝 登



令和7年9月25日に、教育課程企画特別部会から論点整理が出された。そして、9月26日には第1回の社会・地理歴史・公民WGが開かれ、検討事項・論点が示され、審議が始まった。WGにおける検討事項・論点は、

1. 教育課程企画特別部会の議論を踏まえた検討事項
2. 社会科等に関する課題を踏まえた固有の検討事項

### 「1. 教育課程企画特別部会の議論を踏まえた検討事項」は、

- (1)社会科を通じて育成する資質・能力のあり方・示し方
- (2)社会科の指導と評価の改善・充実のあり方
- (3)誰一人取り残さず資質・能力を育成する柔軟な教育課程のあり方

について審議を行う。

ここでは、「2. 社会科等に関する課題を踏まえた固有の検討事項」について示されている検討事項・論点を記載する。

### 社会科等に関する課題を踏まえた固有の検討事項

- (1)小・中・高等学校における目標・内容・方法の体系的な整理

- 児童生徒の生活の実態及び発

達段階、小・中・高等学校の学習対象を踏まえた内容等の体系的な整理

### (2)社会的諸情勢の変化に伴う新たな課題を踏まえた検討事項

●グローバルな協調や競争に関する課題や自然災害、デジタル技術の発展、人口減少社会がもたらす社会構造の変化など複雑化・多様化が進展する社会の状況を踏まえた内容のあり方

●社会の分断や格差の拡大を防止、共生社会の実現を目指す主権者の育成のあり方

### 〈検討の方向性〉

◎グローバル化についての内容の一層の充実

◎世界の動向とそれらを踏まえた日本のあり方を探究する内容構成の充実

◎外部専門家との連携等、社会の現状を把握する活動の充実など

(3)「民主的で持続可能な社会の創り手」の育成に関する課題を踏まえた検討事項

●人口減少社会がもたらす社会構造の変化や災害等への対応を踏まえた、社会の展望と参画についての学習のあり方

●創意工夫を促す、地域の特色

を踏まえた課題発見・追究・解決の学習過程を含んだ学習活動のあり方と工夫

●多様な意見から合意形成を生み出す視点や方法の習得

### 〈検討の方向性〉

◎地域調査を踏まえた地域社会からの社会課題の抽出と、議会等への意見表明など、課題把握、解決への参画機会の設定、方法を含めた理解、それらを通じた参画意識の育成

◎各学校種の段階を踏まえた社会参画意識の育成

(4)AIなどデジタル技術の発展に関する課題を踏まえた検討事項

●個別の知識の集積に止まらない概念としての習得や深い意味理解を促す学習のあり方

●多様で大量の情報を精査し、根拠を踏まえた考察を行うための技能の習得

●よりよい社会の実現に向け、情報格差や情報の偏りなどを相対化した情報収集・情報活用的重要性の認識と技能の習得

◎「社会的現象について調べまとめる技能」について、新たな状況に対応した整理と充実

### 〈検討の方向性〉

◎「社会的現象について調べまとめる技能」について、新たな状況に対応した整理と充実

◎教育や研究における誠実さ、正直さ、責任ある行動を明確に示すなど、学問的誠実性を踏まえた資料の活用や、適切な根拠を踏まえた学習の推進

◎確かな情報源に基づく、有用性の高いデジタルコンテンツの積極的活用(地理情報システムの活用や博物館等のデジタルアーカイブスとの連携)

(5)上記(1)～(4)を実現する上で環境整備

●社会との関わりを踏まえた学習活動を促すため

・地域人材や社会教育施設などの学校外の機関との連携を促進しつつ

・具体的な体験を伴う学習やデジタル環境を活用した取組の実施

などを通じて、深い学びを充実する、社会に開かれた学習環境の構築

◎地域人材や教育資源の活用の一層の工夫と仕組みの構築

◎行政機関の協力(子ども権利条約などを具体化した議会等への意見表明などの公的な機会等の構築)

### 〈検討の方向性〉

(6)その他

# 群馬大会報告

群馬大会実行委員長 岩崎 琢郎  
群馬県前橋市立清里小学校校長



## 【大会第一日目】群馬会館

### ①大会主題提案

大会主題『よりよい社会を創造する児童を育てる社会科学習』  
思考力、判断力、表現力等を高め、社会参画意識を育てる学習の充実』のもと、目指す児童像を、

○社会の問題を見だし、社会的事象の特色や意味を理解する児童

○自分の考えを基に複数の立場や意見をふまえて多角的に考える児童

○自分達の生活する社会に愛情をもち、よりよい社会をつくらうとする児童

と設定しました。

そして、研究の視点を

「視点1・教材開発の工夫」

「視点2・学習過程の構想」

「視点3・評価の在り方と指導の工夫」

とし、内容について具体的な提案をいたしました。

この研究の方向性は、群馬県教育委員会の方針である、子供たちがエージェンシー(人が生まれながら誰しももっている、自分と社会とをよりよくしようとする意志)を発揮する、『自律した学習者』への具現化を図るものとなっておりますことを申し添えます。

大会期間を通してすっかりおなじみになりました『上毛かるた』。先の大戦後の荒廃した世の中を生きた青少年に希望をもってもらおうと、編集委員がGHQと命懸けで交渉するなどして昭和二十二年に誕生し、現在でも県民に広く親しまれています。このかるたに「つる舞う形の群馬県」「雷と空風、義理人情」などと詠まれた本県にて、十一月十三日(木)、十四日(金)に、「県都前橋生糸(いと)の市(まち)」の群馬会館(国登録有形文化財)と前橋市立桃井小学校、「関東と信越つなぐ高崎市」の高崎市立塚沢小学校の合計三会場にて、第六十三回全国小学校社会科研究協議会研究大会群馬大会を開催いたしました。

本県では平成十三年以来となりますが、今回も全国からたくさんのご参加をいただき、盛況のうちに大会を終えることができました。ご報告申し上げます。

## ②指導講評

文部科学省教科調査官

小倉 勝登 先生

現在、進んでいる学習指導要領の改訂に向けた動きに関して、社会科においては主権者の育成や社会参画意識を育てることに伴って担うところが大きいと考えられるが、群馬大会の研究のテーマは、このような国の動向に対応しているものであり期待している、と価値付けていただきました。

さらに、本県では児童の社会参画意識を育てることを目指すために「価値判断・意思決定」を提唱しているが、そのことはあくまでも社会参画意識を育てるための手段であること、さらに「価値判断・意思決定」と学習指導要領にある「選択・判断」との関連性などを児童の姿から検証してほしいことなど、公開授業を参観するにあたっての視点をご指導いただきました。

なお、学習指導要領が新しくなっても、社会科指導の根幹は、問題解決的な学習の充実である、とお話もいただきました。教師も児童も単元全体の見直しをもつなど、日々の授業の中で実践を重ねていくことの大切さを再認識しました。

③記念講演  
「挑戦する勇氣  
背中を押してくれた大切な人の言葉」  
落語家・ぐんま特使  
林家つる子様

子供のころは内気だったつる子師匠は、やがて演劇、そして

落語と出合い、現在は古典落語に出てくる女性の登場人物を主役にしてその裏側を描くなど、新たな挑戦を続けておられます。それらの原動力になったのは「大丈夫だよ。」やってみようよ。」とのお母様や担任、そして師である林家正蔵氏などの言葉だったそうです。日々、子供たちに向き合う私たちにとっても大切にしなければならぬ言葉があることを再認識しました。最後に、母親から描く『子別れ』を演じていただきました。会場は笑いと涙に包まれました。

落語と出合い、現在は古典落語に出てくる女性の登場人物を主役にしてその裏側を描くなど、新たな挑戦を続けておられます。それらの原動力になったのは「大丈夫だよ。」やってみようよ。」とのお母様や担任、そして師である林家正蔵氏などの言葉だったそうです。日々、子供たちに向き合う私たちにとっても大切にしなければならぬ言葉があることを再認識しました。最後に、母親から描く『子別れ』を演じていただきました。会場は笑いと涙に包まれました。

## ②第二会場

高崎市立塚沢小学校

会場校講師 大妻女子大学教授  
澤井 陽介 先生

児童と社会とをつなげる地域素材を活用し、社会的事象との出合いを工夫することで児童の問題意識を高めること、思考力・判断力・表現力等を育てるために児童が社会的事象への見方・考え方を働かせる学習過程を工夫すること、「単元ポートフォリオ」を活用して指導と評価の一体化を図ることを、群馬大会の研究主題に迫るポイントとして設定し、研究を積み重ねてきました。

子供たちは、ゲストティーチャーからのメッセージを聞いたり、自らの学びを振り返ったりしながら考えを深めています。

また、紙上発表も含め、全国から優れた実践を報告、発表していただきました。各会場では熱心な討論がなされました。

以上、おかげ様をもちまして、群馬大会は中身の濃い二日間となりました。この大会が、新しい小学校社会科を創造するきっかけとなりましたら、幸いです。参会者、関係者の皆様へ、心より感謝申し上げます。

大会参加者数  
一日目 二百三十五名  
二日目 二百六十五名  
前橋市立桃井小  
高崎市立塚沢小 二百三十一名

第六十四回 全国小学校社会科研究協議会研究大会  
第四十六回 全国社会科教育研究大会

# 徳島大会のご案内

全国小学校社会科研究協議会  
徳島大会実行委員長 **永井 武**



## 一 はじめに

豊かな自然と伝統文化を併せ持ち、阿波踊りの熱気が息づく徳島県にて、第六十四回全国小学校社会科研究協議会研究大会を開催いたします。本県においては、平成二十二年度以来十六年ぶりの全国大会となります。本大会では、変化が激しく予測困難な未来社会を生き抜く子ども

の育成をめざし、当時の研究をさらに深化・発展させるとともに、次期学習指導要領の方向性も見据えながら、私ども徳島県社会科の研究を全国に発信したいと考えています。皆様のご参加を心よりお待ちしております。

## 二 大会の概要

### ①大会主題

未来に向けて考え続け、より

よい社会を切り拓く子どもの育成、社会に対する認識と判断する力を育む社会科学学習

### ②研究内容

めざす子ども像は「社会の特色や意味などが分かるとともに、根拠や理由をもって自分の考えを決める力を身につけ、他者とともに社会の在り方を考える。そして、未来に向けて考え続け、社会の創り手として、よりよい社会を協働して切り拓いていくことができる子ども」です。その実現に向けて、徳島県では認識と判断する力をバランスよく育む研究に取り組んでいます。

「判断すること、身につけた認識が活用されより深いものとなる。認識が深くなると、下す判断もより深いものとなる。」と考えています。

その具現化のための研究内容は、「単元構想と振り返り」「判断する場面の設定」「考えを深める手だて」の三点です。特に判断する場面を「A社会への関わり方を考える判断」「B深く分か

ることにつながる判断」「C見通しをもつことにつながる判断」に分類して実践研究を進めていきます。

### ③日時・会場・内容

第一日 令和八年十一月十九日(木)

十三時～十六時四十五分

会場 あわぎんホール

徳島県徳島市藍場町二丁目十四

開会行事・全体会・大会主題

提案・指導講評・記念講演・

閉会行事

第二日 令和八年十一月二十日(金)

九時三十分～十六時十分

第一会場 徳島市助任小学校

第二会場 徳島市沖洲小学校

公開授業・全体会・指導講評・

学年別授業研究会・学年別課

題研究会

### ④講師

第一日 全体会指導講評

文部科学省初等中等教育局

教育課程課教科調査官

小倉 勝登 先生

記念講演

阿波十郎兵衛屋敷館長

佐藤 憲治 氏

第二日 学校会場指導講評

大妻女子大学教授

澤井 陽介 先生

第二会場 帝京大学教授

鎌田 和宏 先生

令和八年度 全国小学校社会科研究協議会研究大会  
第七十三回 近畿小学校社会科教育研究協議会

# 京都大会のご案内

全国小学校社会科研究協議会  
京都大会実行委員長 **當麻 章 英**



## 一 はじめに

京都市小学校社会科教育研究会の全国大会を令和九年二月に開催いたします。

京都社研の歴史は古く、昭和二十二年の新学制が施行され、社会科の発足とともに創設されました。今年で創設七十九年となります。

この長い歴史の中で、京都社研が一貫して大切にしてきたものは「不易と流行」です。本質を忘れずに、時代に即した考え方を取り入れ、これまで受け継いできたものを大切にしながら、新しい風を吹き入れる・・・この風土が京都社研に土台にあります。そして、伝統として受け継がれてきたものは、子どもが主体的に調べ、考える「子ども

が輝く社会科学習」を実現することです。子どもが輝く姿を大会参加者の皆様にお見せできるよう、研究活動を進めています。二大会の概要

### ①大会主題

#子どもが調べ考える社会科学習「今」を見て「先」を見通し自他に問い続けていく子どももの育成を目指して

### ②研究内容

より良い問題解決を見据え、自他に問いかけていく子どもの育成を目指し、「主体的な学習の充実を図る三つの矢、学習問題の設定、見通しの充実、調べ学習の充実」と「学びの確実な定着を図る二つの環、系統立てて育む力の整理、持続可能な評価」の五つの方策を単元構想に落とし込み、授業づくりに取り組んでいます。

また、社会科学授業の専門家でないといけない授業ではなく、だれでもできる社会科、子どもも教師も楽しい社会科の授業を目指して、研究活動を行っています。

③日時・会場・内容  
 第一日 令和九年二月四日(木)  
 十三時～十六時三十分  
 会場 (調整中)  
 開会行事・全体会・大会  
 主題提案・指導講評・記念講演・閉会行事

第二日 令和九年二月五日(金)  
 九時三十分～十六時三十分

第一会場 京都市立待鳳小学校  
 第二会場 京都市立唐橋小学校  
 第三会場 京都市立春日野小学校

全体会・公開授業・指導講評・学年別授業研究会・学年別課題研究会

④ 講師  
 第一日 全体会指導講評

文部科学省初等中等教育局  
 教育課程課教科調査官

小倉 勝登 先生

記念講演

「琵琶湖疏水が

京都に齎したものを」

京都平安神宮名誉宮司

本多 和夫 氏

第二日 学校会場指導講評

大妻女子大学教授

澤井 陽介 先生

第二会場

総合初等教育研究所 参与

北 俊夫 先生

第三会場

國學院大学名誉教授

安野 功 先生

## 各都道府県の動向 山梨県・大分県

### 山梨県

#### 「山梨県の取組」

山梨県小学校社会科教育研究会

会長 饗場 宏

本県は「社会科における協働的な学びの考察」とテーマを設定し、小中学校教員が一丸となつて研究に取り組んでいます。

今年度は、社会科における協働的な学びの一つとして、「議論」を取り入れた単元づくりをめざし研究を進めました。研究推進員の「一人一実践」による授業実践の共有に加え、春夏秋冬四回の学習会を開催しました。特に、六月十四日には山梨大学の服部一秀先生と後藤賢次郎先生に理論研究に関わること

をいただきました。十月二十五日には大分大学教職大学院の柴田康弘先生より「議論を生み出す学習課題」と題してご講演いただきました。

次年度は今年度のテーマを引き継ぎ、研究授業の構想・実践を行う段階に進む見通しです。引き続き本県社会科教育の充実に努めてまいります。

### 大分県

#### 「大分県の取組」

大分県小学校教育研究会社会科部会

会長 衛藤 俊明

令和八年十一月二十七日、本県大分市において、第六十回九州小学校社会科研究協議会研究大会を開催いたします。

研究主題を「子どもが生きる社会科学習と社会とつながり自分の生き方を創りつつける子どもが育つ地域教材と学習展開の構想」とし、これまで大分県が取り組んできた地域素材の教材化と人に学ぶこと、「であう」とらえる↓つくる↓いかす」の四段階で自ら課題を解決していくことを研究の視点とし、大会に向けて研究実践をすすめています。大会では、文部科学省小倉勝登調査官に指導講評をいただく予定です。

現在の教育現場に求められているものや次期学習指導要領の方向性等も適宜取り入れながら研究大会に向けて邁進していきたいと思っております。九州を中心に多くの先生方のご参加をお待ちしております。

## 全小社研事務局だより

全国小学校社会科研究協議会事務局長  
 東京都港区立筭小学校校長

矢部 洋一

各団体の理事、会員の皆様にと題した講話がありました。

は、本年度も全小社研の諸事業について、ご理解とご協力をお願いいたします。

本年度は、令和七年十一月十三日(木)、十四日(金)に群馬県において第六十三回全国大会が開催されました。

第一日目の全体会は、前橋市群馬会館で、二日目の会場別研究会は、前橋市立桃井小学校、高崎市立塚沢小学校の二会場で行われました

全体会では、大会主題について、児童の社会参画意識を育てるために、「価値判断」と「意思決定」を重視し、「教材開発の工夫」、「学習過程の構想」、「評価の在り方と指導の工夫」の三つの視点で研究を進めてきたことの説明がありました

二日目の会場別研究会では、地域素材の活用や、外部講師を招いた授業、価値判断を求める場面設定などが提案され、子どもたちが意欲的に考え、発言していました。また、授業後の学年別授業研究会、学年別課題研究会においても貴重な実践提案と熱心な協議が行われました。

講師の皆様、県・市の教育委員会の皆様、県事務局、関係の皆様、厚く御礼申し上げます。

#### 【次年度全国大会の予定】

○第六十四回徳島大会

令和八年十一月十九日(木) 二十日(金)

○令和八年度京都大会

令和九年二月四日(木) 五日(金)

#### 【個人会員の募集】

多くの皆様に個人会員としての参加をお願いいたします。

個人会費 年額一、五〇〇円

郵便振替口座番号

〇〇一〇〇一六一二八二五五七

全国小学校社会科研究協議会